

香川県教育センター研究発表会 報告



研修に活用できる 特設サイト

今年度の発表冊子をPDFでダウンロードできます。また、関係資料をPDFやエクセルデータで掲載しています。



オンデマンド配信

研究発表会の発表Ⅰ～発表Ⅲを教育センターWebサイトでいつでも閲覧できます。

【認証領域: 要 ID/パスワード】



発表Ⅰ 全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査結果分析



教科に関する調査と質問紙調査の結果を分析し、本県の特徴をまとめました。そして、結果分析からいえる児童生徒主体の学びの実現に向けた授業改善や教師の働きかけについて提案しました。

参加者の感想より

全体的な、状況分析や課題などを客観的に知ることができて参考になった。学校の課題を再度洗い出したり、分析したりして、今後の取組の参考にしたい。

「児童主体の学びのためのチェックポイント」も、本校の取り組みに取り入れていきたいと感じました。来年度の研究へ、自己選択、自己決定ができる場を設定できるように考えていきたい。

日頃の授業に生かしていくためには、調査の時期の前後だけではなく、現職教育における研究授業の場、若年研修の場などを適宜生かすことが大切であると感じた。定期的に教師がポイントを意識できるような「研修体制の構築」を目指したい。

令和6年度
香川県学習状況
調査報告書



研究協議 「さあ、出番」 ～児童生徒が学び手としての 主人公になる授業改善を！～

授業改善の視点として、自分事の学びにするための「自分の出番」、学び手としての主人公になるための「ICTの出番」、学びを子どもに委ねるための「教師の出番」について、3人のパネラーが考え方や必要性を提案しました。

続くグループ協議では、全体共有に Figjam を使用し、ICT 活用の便利さも実感していただきました。ここでは「どのような授業をめざし、何から改善を始めるべきか」「どのように、明日から取り組むのか」の2つのテーマにそって参加者同士で活発な話し合いがなされました。

全体に共有できたことで授業改善を「自分事」として考える機会となり、学校現場での実践が期待できる研究協議になりました。

参加者の感想より

授業改善に向けて御参会の先生方の考えを参考にできた。教師自身に課題があると考える回答が多く、教師は常に学び続け、自己研鑽に励む必要があることに気付いた。明日から実践できそうなことを持ち帰るというコンセプトが議論を白熱させていたように感じる。

これまでの講演を拝聴するのも勉強になったが、今回のような同じ立場の教員同士での研究協議も、得た学びは多かった。個人的には研究協議の方が自分事として参加できたのでよかった。

Figjam を使っての話し合いは、画面共有ができていたので、他のグループの意見もリアルタイムで見ることができ、それを見ながら共感したり付け足したりして話し合うことができた。



発表Ⅱ 児童生徒が主体的に ICT を活用して取り組む学習の充実に向けた調査研究



児童生徒は一人一人違っていると認識し、それぞれの学びがベストになる授業改善を目指すために、協力学校の実践を基に ICT の活用を「教師の授業改善に関わる5つの視点」と「児童生徒の学び方に関わる3つのキーワード」で整理し、提案しました。

参加者の感想より

ICT がある環境では、児童同士の「他者参照」がしやすいように感じる。自分の意見に自信がない児童や早く学習が終わってしまった児童が友だちの意見を見て考えを深めることができると思う。

「教師のICT活用5つの視点と児童のICT活用の3つのキーワード」が分かりやすく、詰め込むのではなく、そのときにベストなマッチングをすると効果が倍増するのを感じました。来年度は、何を改善するか明確にして取り組んでいきたいです。

これまでの教材とICT教材の「ベストミックス」に向け、授業改善をICT活用の視点をもって取り組む必要性に気付いた。教師は授業のねらいに沿って、ICT活用のタイミングを見定めることが重要であり、本研究はその手がかりとなった。

児童生徒が主体的、効果的にICT教材を活用できていると実感できるように、教師は意図的に「ICT活用のタイミングやその授業に応じたルールを設定」していく必要があると感じた。「教師、児童生徒共に、ICT活用のスキルアップ」を図り、よりよい学びの実現を目指したい。

授業改善！
「学び手としての主人公」
になる ICT 活用
【認証領域】



発表Ⅲ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた調査研究



「個別最適な学び」の観点と「協働的な学び」の観点から、充実させたい学習活動のねらいと、そのために重視すべき教師の役割を整理し、4つの「教師の出番」として提案しました。

参加者の感想より

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図ることが難しく感じていたが、4つの教師の出番の提案がとても分かりやすかった。学習環境の選択肢の充実、必要感のある学び合いなどについて、単元全体を通して計画していきたい。

不易と流行について考えさせられた。協働的な学びや個別最適な学び、ICT の活用と新たな言葉が多々出てきている中でも、「教師の出番」というキャッチーな言葉が大変印象的だった。教師の役割は普遍で、何をどのようにアップデートするか、大変考えさせられた。

個別最適な学びを行うにあたって、授業内容の精選や生徒にどこまでさせてみるのかという線引きがとても難しいと感じた。様々な生徒がいる中でそれぞれの生徒に合わせた教材づくりや課題設定が必要だと思う。

教師主導の授業から脱却し、生徒が主体となる学習へと変化させていくことが求められるが、今の自分はそれができていないと思った。まずは、生徒同士の会話が広がるような授業をめざし、その中で生徒の協働的な学びにつながるようにしていきたい。

児童生徒主体の
学びをつくる
～今求められる、
「教師の出番」～



香川県教育センター研究発表会



司会者と
figjam 担当

クラウド上のコメントはリアルタイムで揃えていく

発表ごとに3名の
パネリストが発表

「さあ、出番」 ～児童生徒が学び手としての主人公になる授業改善を！～

グループで2つの協議議題について、じっくりと話し合う

クラウド上には、各グループの意見が書き込まれるので、参照しつつ議論を進めていく

5 階大研修室は満席、4 階の 2 中研修室でも、参加者が協議を進めています